

一般社団法人宗教者支援協会 -令和 6 年度 事業報告書

一般社団法人宗教者支援協会は、令和 5 年 6 月の設立以来、「宗教者を支えること」「宗教者が社会を支えること」を実現すべく、公益性の高い支援活動を展開してまいりました。人口減少・高齢化・地域社会の希薄化といった複合的課題があるなかで、宗教者が安心して信仰活動を続け、かつ地域貢献を果たしていくための環境整備を目指しています。

令和 5 年度から 6 年度にかけて取り組んできた各種支援活動は、現在も継続的に展開しており、これまでに寄せられた相談件数は累計で 1000 件を超えました。法務に、相続や不動産、建築修繕、福祉連携、施設運営、保険年金など多岐にわたる課題に対応しながら、必要な支援に丁寧につなげてまいりました。

これらの取り組みが注目され、複数の出版社やマスコミ等から取材を受ける機会も増えており、当協会の活動は宗教界のみならず、広く社会全体においても急速に知られつつあります。宗教者が社会の中で果たす役割への関心が高まるなか、当協会の存在意義と責任もまた、着実に大きなものとなっております。

SNS による宗教界への注意喚起（法改正や、悪質業者への対応等）や、YouTube 公式チャンネルを開設し、視覚的に分かりやすい啓発活動（宗教施設の無料建物健康診断等）も展開を開始、様々なコンテンツを世に公開し、また黒住教や天理教等で実務講習会等のセミナーを複数回開催し、さらに令和 6 年度以降、以下の新規事業を実施・開始し、より広域かつ多角的な支援体制を整えてまいりました。

当支援協会は、長年聖域とされ専門家による包括支援の手がなかなか入らなかった宗教界における最期のセーフティーネットとしての役割も果たすべく、様々な支援業務を展開いたします。

一方で参画する土業専門家の育成指導も同時並行で進めており、聖俗の接点としての機能もより強化育成しております

■新規プロジェクトおよび主要な取り組み

●相続後見支援センター 設立・サイト公開（令和 6 年 7 月）

寺社教会に対する寄贈・遺贈の普及を目的に、法務・相続・後見に関する相談体制を整える「相続後見支援センター」を設立しました。社会全体で単身化や高齢化が進行する中、特に宗教法人を取り巻く相続問題は複雑化しており、檀信徒の相談も増加しています。

センターでは、弁護士や司法書士などの資格を有する専門家と連携し、無料相談の体制を整備しています。協会自身が法的判断を行うのではなく、専門家への橋渡しを担い、宗教者が安心して信仰活動を継続できるよう支援しております。

●宗教者視点のエンディングノート 公開（令和 7 年 5 月）

宗教者監修による、信仰を持つ方のためのエンディングノートを黒住教学院との協働により制作・公開しました。本ノートは、遺言や財産の整理、信仰上の希望、家族や信者への思いなどを、宗教者ならではの視点で整理できる構成としました。

人生の終末期において、信仰と向き合い、自らの歩みを見つめ直すための心の準備として活用いただくことを目指しており、今後は各宗派・宗教施設への配布も進めてまいります。

●建物修繕支援センター・つむぎ職人会 発足（令和 6 年 9 月）

老朽化が進む寺社教会の建築に対応するため、建物修繕支援センターを開設し、無料の建物健康診断を中心としたサポートを開始しました。建物の安全性や維持管理を可視化することで、信仰の場の継承を支える体制を構築しています。

あわせて、宗教施設に精通した職人や工務店をつなぐネットワーク「つむぎ職人会」を発足しました。宗派を問わず、信仰の理解、神仏への敬意を持った職人同士が連携し、宗教建築に必要な技術と精神を後世に継承することおよび、職人の人財バンクとなる目的としています。文化的・宗教的価値の保全と地域との共生を見据えた取り組みを推進しています。

●ミチコネクト サイト公開（令和 6 年 10 月）

「ミチコネ」は、もともと天理教飾東大教会の紺谷会長によって立ち上げられた、天理教内の信仰者同士をつなぐマッチング・交流プラットフォームです。この仕組みを超宗派間で有能な信仰者の人財バンクとして発展させる形で、当協会が譲渡を受け、名称を「ミチコネクト」と改めて、令和 6 年 10 月に全面的にリニューアルし、公開しました。

ミチコネクトでは、宗派を超えた宗教者や信仰者の得意分野や専門性を可視化し、全国規模でつながりを生み出す交流基盤として機能しています。信仰に根ざした知識や経験を社会貢献につなげる仕組みとして、今後の発展が期待されています。

●神仏具再生プロジェクト（令和 7 年 4 月）

宗教施設の移転や閉鎖などによって行き場を失った神仏具を、信仰への敬意を持って丁寧に修繕リメイクし、希望する他の宗教施設へ譲渡するプロジェクトを開始しました。この活動は、先人の想いを大切にしながら、信仰文化の継承と再活用を目指すものです。

現在は、宗教施設とのネットワーク拡大を進めており、修繕や譲渡を担う協力者の募集も行いながら、事業の持続可能性と信頼性の確保に努めています。

●境内地の有効活用コンサルティング事業 開始（令和 7 年 5 月）

全国の宗教法人が抱える「未活用境内地」の課題に対し、その社会的可能性を引き出すことを目的としたコンサルティング事業を令和 7 年 5 月に開始しました。地方においては人口減少や檀信徒の減少が続く一方、都市部では人口の過密化、文化的摩擦、経済的格差の広がりなど、地域社会の状況はますます多様化・複雑化しています。

本事業では、宗教的価値や信仰の尊重を大前提としながら、福祉、防災、教育、地域交流など公益的な活用を提案することで、宗教法人が地域とともに生きる「開かれた法人」として歩む支援を行っています。既に複数の宗教法人から相談が寄せられており、それぞれの教団や地域の特性に応じた将来的なあり方をともに考える機会をご提供しています。

●組織体制の強化と倫理体制の整備、経済界との連携構築（令和 7 年夏）

令和 7 年夏、代表理事の交代により若狭一廣が第二代代表理事に就任しました。これを機に、協会では宗教法人の経営支援や相談対応の質向上を目的としたコンサルティング機能を強化し、多様化する相談に適切に応じられる体制づくりに取り組んでいます。

また現在まではお気持ち制の寄付で運用して参りましたが、新体制下では、年会費の徴収や、国家資格者が集う専門家集団の仕組みを活かした総合コンサルティング事業（収益事業）にも参入し、支援協会の経済的基盤を強化しつつ、従来通りの災害支援や、慈善事業等にも積極的に展開します

また、倫理的配慮と社会的妥当性を備えた活動を行うため、倫理規定や相談対応に関するガイドラインの整備にも着手し、信頼ある支援体制の確立（倫理委員会設立）を目指しています。倫理委員会には、各宗派から理事を迎え、外部委員として文化時報社社長等を招聘し、様々な宗教関連連盟等との提携により、適切な倫理観の構築と、開かれた支援協会の確立を目指します。また、信仰を持つ経営者の会や、宗教関連の学術機関との連携を構築し、後述の議員連盟発足と併せて宗・産・官・学の連携により宗教界の社会問題に挑戦していきます

■今後の展望と公益性強化

当協会は、一般社団法人から公益社団法人への移行を目指しており、公益認定取得に向けた準備を進めています。今後は、以下のような取り組みに重点を置いてまいります。

●宗教団体の IT 支援・助成制度の創設

ホームページ制作、SNS 活用、動画配信など、宗教法人が信仰活動を広く社会に向けて発信できるように、情報技術を活用した支援制度を検討しています。特に IT の導入が難しい小規模法人に向けた助成や技術支援を通じて、地域とのつながり強化を図ります。

●慈善団体の ICT 化啓発・支援事業

子ども食堂や生活困窮者支援などを行う宗教系団体や福祉団体に向けて、ICT の活用を促進する啓発・支援事業を実施します。業務効率化や情報発信力の強化により、寄付者や支援者との信頼構築を支援します。

●宗教者および外国人の雇用促進・啓発事業

宗教法人に隣接する施設の後継者不足や人材課題に対応するため、宗教者や外国人の雇用を促進する取り組みを検討しています。多文化共生の視点から、研修や雇用支援のあり方を構築してまいります。

●不動産の保有による慈善拠点整備

宗教不動産や境内地、地域の空き家などを保有し、子ども食堂や地域の居場所づくり、福祉事業、災害救援活動拠点として再活用する制度の構築を進めています。地域社会に根ざした新たな公共福祉の空間として、信仰と社会の接点となるモデルケースを提案してまいります。

●宗教者支援協議員連盟の設立

それぞれの信仰を持つ国会議員、都道府県議、市区町村議有志による宗支協議員連盟設立の準備に入りました。各教団宗派の信仰を持つ議員が集まり、不活動宗教法人境内地の行政寄付や、宗教法人法等、宗教界を取り巻く社会情勢に合わせた法改正や制度整備の行政提言を行ってまいります

●超宗派間連絡会の設立

開かれた宗教者を基点とした社会貢献活動を行うため、宗派を超えた宗派間連絡会を設立し、実務者レベルでの交流を図り、各宗派のもつノウハウの共有や、人的交流等を推進し、宗教界の問題解決と、社会貢献、人財の確保等に寄与します

当協会は今後も、宗教者の後方支援団体として、様々な聖職者と、信仰を持つ檀信徒のサポートを行い、悠久の歴史を持つ“祈りの文化”を軸に、地域社会と調和しながらこれからも宗教者が社会を導き続けることが出来る後方支援を行ってまいります。

引き続きのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。